



中高生とともに差別と闘う

それぞれの「正解」

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



揺さぶられるおもしろさ

三つの人権作文発表でいったん区切り、フロアにいる中学生の意見交換が始まるのですが、待つてました！とばかりに手が挙がっていきまです。発表内容に共感した発言です。家庭内で話された部落差別について語る子。

自校の人権集会に話しに来てくれた地区出身の方の言葉や、産婦人科医の方の話を紹介する子。

発表者の勇気を讃えたうえで、自分もそうなりたいと連帯の意思を表明する子。

学校ですと取り組んできている
人権劇の価値を改めて再確認したと
いう子。

そのうち意見交換は、「差別はなくなるか、なくなるらないか」という議論になっていきます。それぞれの考えが、OGやOB、教員も巻き込んで、あーでもない、こーでもないと議論されていきます。

この議論に揺さぶられてもう何度目になるでしょう。揺さぶられては持論を固めるのに、また同じような議論で揺さぶられて。でもその揺さぶりがあつて初めて、自分の中の芯が固まつていくように思います。だから揺さぶられる過程は大切。そして、おもしろい。そう思うのです。

それぞれの「正解」

先日、女子生徒が寄ってきて、「RADWIMPSの『正解』を卒業式で歌いたい」と言い出しました。「ま

だ一年も先のことじゃない」と笑いながら、「それに知らないよ」と返すと、聴いてみて、と。

今までにも似たようなやりとりは何度となくありました。

例えば、櫻坂46の「サイレントマジョリティー」。「先生絶対これ気に入るから聴いてみて」と言ってきた子もいました。聴いてみると、なるほど。確かに私の琴線に触れる歌詞でした。

最近で言えば、アニメ「ヴァイオレット・エヴァーガーデン」や、「鬼滅の刃」。これらも、「これは人権だから見てみて」と、子どもたちからオススメされました。どれも見てみると、確かに心揺さぶられる作品でした。子どもたちは子どもたちなりに、自分なりの人権にヒットしたものを見つけるのだと思います。

さて、「正解」の歌詞についてですが、その場で初めて聴いて、耳にガツンと飛び込んできたフレーズがあります。

✱

ああ 答えがある問いばかりを
教わつてきたよ そのせいだろうか
僕たちが知リたかったのは

いつも正解など大人も知らない
喜びが溢れて止まらない夜の眠り方
悔しさで滲んだ心の傷の治し方
傷ついた友の励まし方

*

直感しました。「そうだ、子どもたちは答えない問いを望んでんだ」と。

以前紹介したかと思いますが、「みんなですぐ語り合う人権学習（全体学習）」を経験した元教え子たちへの追跡調査で、もう中学校を卒業して二十年以上にもなる子が、当時をふり返り、このフレーズと同じ言葉を記してきました。

「答えのない問いのようなものにな
みんなが向き合っているような感覚
でした」

あの多感な時期に、はつきり分かつてゐる答えばかりを無理矢理教えられることに、子どもたちは違和感を感じてゐるのかもしれない。誰も分からない、答えなんて一つじゃない問いを、みんなで考え合う時間こそが、子どもたちが求めているのだったんじゃないかと。だから人権学習は必要なのだと。

翼でも生えたかのような時間

このフレーズを指して、その場にいた子たちに、「そんなことないよ、人権学習とかそうじゃない」と言うのと、「あ、そうか」と得心する姿に、吹き出してしまいました。

ちなみに「正解」の歌詞の最後は、こうです。

✻

制限時間は
あなたのこれからの人生
解答用紙は
あなたのこれからの人生
答え合わせの時に私はもういない
だから採点基準は
あなたのこれからの人生

「よい、はじめ」

*

人権学習に終わりは無い。命ある限り続いていく。そして答えは、それぞれのなかにしか出ない。そんな思いを代弁してくれているかのよう。歌詞に、うまく書くもんだ、と感謝しました。

学校で学ぶ差別問題や人権課題について知ることは大切だと思いませんか。でも、それだけだと、心の中に残らないんじゃないかとも思いました。教科書や教材のなかにある角切ったものではなく、もっと子どもたちの身のまわりにある、流行りの漫画やアニメ、漫画や小説、テレビや映画やゲームのなかに潜む「人権」視点を向けながら、それとリアル差別問題や人権課題がどうつながっているのかを語り合うことができれば、人権学習に対する見方は随分と違ったものになっていくのかもしれないと思います。人権学習の間が、そんな自由になれる時間、でも生えたかのような時間になるいいなと思います。

人権を語り合う中学生交流集会の告知書は、このあとも全体会Ⅱへと続いていきます。その中身は、どうホームページ (<https://lovernet>) からご覧になってください。

今年の集会も、いよいよ来月の開となりしました。今年はどんな出合いが待っているか、今から楽しみです。

(次号に続く)